



木林木の譚

二十一世紀の森づくりシリーズ 92

八月の木の花

サルスベリ。サルスベリは、み 花です。今回で3度目の紹介とな
そはぎ科の花木で、夏季に目立つ ります。



以前、サルスベリの花の色が綺麗で、赤・ピンク・紫・白を中心にした中間色など、多くの色があることを書きました。この色に魅せられて町内で素晴らしい色の花を咲かせる場所のマップを作っています。濃いピンクの

代表は、上須恵区の集落の中にあります。紫系は、南米里区や城山区で多く見ることが出来ます。深紅は、若杉の森運動公園の野球場西付近西斜面に見ることが出来ます。また、ここでは白色の素晴らしい花も見ることが出来ます。広い芝生の公園に、大型のサルスベリの木が複数植えてあれば、夏がたのしいだろうと考えています。若杉の森運動公園には、かなりの本数が植えてありますので、あと二十年位すれば見事な深紅の花を見ることが出来るでしょう。この公園ですら、小さな木ですが枝先に花を付けているものがあります。

筆者は、サルスベリやムクゲ、ノウゼンカズラを取り合わせて、夏のガーデニングをしてみたいと思っています。

(自然教育林事務局長)

珍しい木・想い出の木・不思議な木・植物好き・花好きなどに木にまつわるおもしろい話を教えてください。

連絡先 歴史民俗資料館
☎ 932・6312

楽しく考古学

古墳時代(3世紀後半〜7世紀)

古墳時代の集落
先日、粕屋町の歴史資料館で開催された「粕屋の古墳」発掘調査報告会に参加しました。その際、会場から「古墳時代にはどれくらい人口だったのか?」という質問を受けました。

考古学で分かる昔の人の生活の痕跡は、住居跡や倉庫などで構成される集落や、古墳や横穴墓などの墓です。近年では、昔の道や港なども各地で見つかっています。集



古墳時代の住居跡

須恵町には、古墳時代の集落の発掘調査例があります。乙植木区の牛力熊遺跡です。この遺跡からは、古墳時代後期(6〜7世紀)の竪穴住居が27軒、掘立柱建物(倉庫含む)が28棟見つかりました。住居の中からは、滑石という石を用いた装身具や紡錘車(糸をつむぐ道具)などの、未製品や石の破片が見つかりました。近くの柿ヶ元池からも、玉作りの遺物が表面採集されています。牛力熊遺跡や柿ヶ元池遺跡は、玉作りを行う特殊な集落であったようです。(啓)

シロース「なるほど共育」

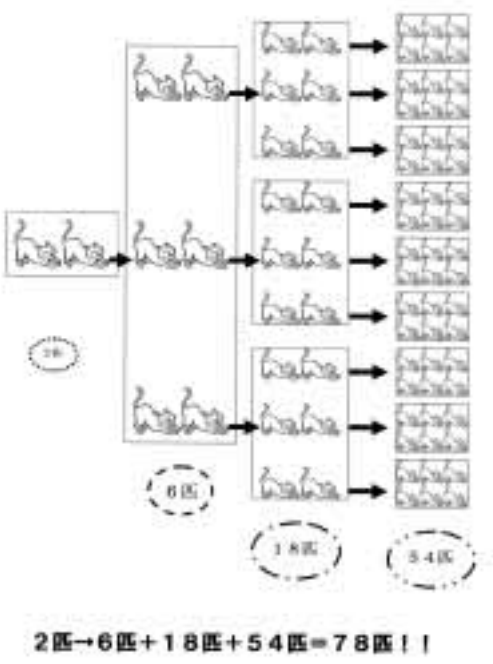
第2回 人と猫の共生

猫は、犬の次に人間のパートナーとなった動物といわれ、農耕をして収穫したものをネズミなどの有害鳥獣から守るために飼われていたといわれています。

元々猫は、犬とは違い単体で生活する動物で、砂漠に住んでいたといわれ、その為かあまり水を飲まず、濃くて臭い尿をします。

猫は、生後5か月から妊娠が可能で、年間最大3回妊娠することが出来ます。

例えば...1回の妊娠で6匹生まれ、生れた子猫の半数がメスとすると2回目は18匹にもなり、年間最大78匹増えることになります。



2匹→6匹+18匹+54匹=78匹!

現在、飼い猫や野良猫に関する様々な苦情が、非常に多くなっています。

ニャンとかしてほしい! 猫の飼い方について お願い!!

その一 野良猫にエサを与えない

苦情...『近所で猫が増えて困ってます。』『かわいいから、つい...』『かわいそうだから...』と野良猫にエサを与えると、猫は、次々と繁殖していきます。繁殖し、頭数が増え、家の外に出てしまうと、何をしているのか全くわからず、近隣に多数の迷惑をかけることとなります。また、増えていけば、エサを与えることができなくなり、結局、知らない間に不幸な猫を作ってしまう。もし、エサを与えるのであれば、『かわいそう』だけの気持ちでなく、飼い猫として、きちんと責任をもって育てることが大切です。

その二 去勢手術を行う

苦情...『子猫がたくさん生れてしまったのもらってくれる人はいないですか?』『猫の鳴き声がうるさい!』オスの去勢手術は スプレー(マーキング行為)やケンカを防止します。メスの去勢手術は 不慮の妊娠を防止、発情時の鳴き声なくなります。また、手術による病気の予防・効果も多数あります。飼い主が、責任をもって飼える猫は限られていると思います。不幸な猫を作らないためには、猫の家族計画は必要であり、その責任は飼い主です。

その三 迷子札をつける

苦情...『猫がいなくなったのですが!』役場には、衰弱や事故などで自力で移動できなくなった多くの猫が、負傷動物として保護収容されます。しかし...そのほとんどの猫は、飼い主が判明していません。また、迷子になってしまった猫も、どこを行動しているかわからず、猫の特徴だけでは、似た猫はたくさんいるため、ほとんどが見つかりません。そのため、迷子札(飼い主の住所・氏名・連絡先)を首輪などにつけていけば、飼い主が判明するケースが多数あります。猫のためにも、飼い主のもとに帰るようにしましょう。

その四 トイレのしつけをする

苦情...『猫がうちの庭にきて、糞・尿をする!』猫の糞・尿は、非常に臭く、その匂いはなかなか取れません。飼っている猫が、自宅の外に出ている間、猫の行動は、飼い主にも分かりません。そこで、自宅トイレをするしつけをしていない猫は、自宅の外に出た時に、糞・尿を行い、それが、他人の家の庭であったり、花壇であったりと様々です。飼い主本人が分からないところで、近隣に迷惑をかけていることもあります。トイレは、自宅内でするようにしつけし、においやその始末にも十分配慮しましょう。

その五 室内で飼いましょう

苦情...『猫が、道路・空き地で死んでいる!』猫は、発情すると交尾するまで何度も発情が繰り返してきます。そのため、外にでて異性を探し、放浪するため、感染症の病気になる危険性が高いといわれており、外にいる猫の30%以上が、ネコ白血病やネコエイズの保菌者であり、交尾やグルーミング、ケンカなどの外傷で感染することにより、命を失っていきます。また、人間の車社会の中で、猫にとっては、その車は、非常に脅威なものであり、車の事故により死亡する猫は、後を絶ちません。なるべく室内で飼うように心がけましょう。

その六 猫のたべもの?

猫のエサに、犬のエサ(ドッグフード)を与えている方がいると聞きます。猫は、完全肉食性であり、犬が食べているドッグフードの栄養素、猫に必要な栄養素は全く違います。ドッグフードを与えることにより、失明をするなどの事例があります。また、逆にしても、犬に猫のキャットフードを与えることにより、肝臓の病気に罹るようになります。猫の食生活も考え、きちんとエサを与えましょう!

今回は、『野焼き』について...